

平成15年度国立学校等技術専門官研修に参加して

石井, 幸治
九州大学応用力学研究所技術

<https://hdl.handle.net/2324/1958409>

出版情報 : 九州大学応用力学研究所技術職員技術レポート. 5, pp.97-98, 2004-03. Research Institute for Applied Mechanics, Kyushu University

バージョン :

権利関係 :

平成 15 年度国立学校等技術専門官研修に参加して

応用力学研究所技術室 石井幸治

主 催：文部科学省及び東京大学

参 加 者：全国の国立大学・高専・直轄研における技術専門官相当の職にある者。合計 79 名

研修期間：平成 15 年 8 月 6 日(水)～8 月 8 日(金)

研修会場：東京大学(本郷)

本年度の文部科学省の技術専門官研修に参加した。「実施要綱」や「日程」は応用力学研究所技術室のホームページに掲載されているので参照されたい。

九州大学からは 4 名の参加（農学部・工学府・人間環境学府・応力研から各 1 名）であった。日程の内容から見れば、九州地区大学技術専門職員研修や九州大学教室系技術職員専門研修と大差はない。コース別研修がない代わりに施設見学とフリーディスカッションおよび特別講演があった。以下、研修のあらましと感想を述べる。

第 1 日目（8 月 6 日（水））の研修は全て文部科学省の担当部署の方が話された。

最初の「人事行政上の問題」では服務規律と勤務時間についての説明があった。40 ページの参考資料も配布された。

次の「職場の安全管理」では安全管理体制や基準、最近の災害発生状況、人事院規則 10-4 と労働安全衛生法について話があった。40 ページの参考資料が配布された。

次の「大学行政上の諸問題」では国立大学の独立法人化についての話であった。資料もなしでメモを取ることも差し控えてくれと言われて、国立大学の法人化に関する国会審議の話から始まった。以下、法人化への議論の背景について私の聞き取りメモである。

国立大学の在り方についての意見に幅があり（①国立大学は要らない私学でよい。②必要であるが改革すべき。③文科省は金を出して口を出すな）審議が 3 ヶ月もかかった。文科省としては国立大学の民営化はしない→法人化しても国立大学としての役割を果たすべきと考えている。金も出す。口も出す。果たすべき役割として①地域バランス（私学は大都市圏に 7 割、国立は地方に 7 割）②学務バランス（学生数は私学 7 割、国立 3 割）③分野（私学は文科系が多く、理科系は国立が多く担う）等があること。財政的に見れば国立 100 校で 15,000 億円、私立 500 校で 3,000 億円となっているが理由は「国立だから」のみ。戦後の大学教育と学生増に対して私学に安価に受け入れてもらった。独立法人化とは何か→国立大学の運営(マネージメント)の改革を進めるという事で①国立大学と文科省の関係を変えること②国立大学と国民(社会)との関係を変えらること③国立大学内部の関係を变えること、・・・

などなど国立大学の独立法人化に関して文科省の考え方が聞けた事は大変参考になった。

次の「学術行政上の諸問題」では、我が国の科学技術・学術の現状が豊富な資料（46 ページ）と共に説明された。

紙面の都合で 1 日目の講義の話はこの辺にしておく。

夕方から懇親会が山ノ上会館で開かれた。立食形式であり、いろんな大学の人と交流できた。この懇親会には文科省の講師になられた方たちも参加されていて同席の機会があり、いろんなことが話題になった。有意義なひと時であった。

第2日目(8月7日(木))午前中は「ストレスマネジメント」講義では、ストレスと健康、ストレス解消法、ストレスレベルの計測(各人の脈拍と呼吸から分かる)などについて、専門家の話があった。

午後はポスターセッションである。九州大学の技術職員研修でも行われているので、参考までに、実施要綱を掲載する。

予稿集のポスター番号別に4交代で行う(1人50分の持ち時間)

- ・分野ごとに(通し番号)指定の場所に掲示する。(①機械、②電気電子、③情報処理、④物理化学、⑤生物・生命、⑥土木・建築、⑦その他)
- ・各分野の中を更に4班に分ける。(発表の時間帯振り分け)
- ・4つの時間帯に割り振られた該当番号の人は、個々に説明発表を行い自由に情報交換を行う。(自分の持ち時間以外の人は分野に限らず自由に回り、質疑応答するなど相互の情報交換を行う。)

ここでいう分野は予稿集提出時に本人が申請したポスターセッションの分野である。

(九大での調査で分野を聞くと「公務員試験の分野」や、「所属する研究室の分野」、「自分の仕事の分野」といろいろ混同しているようだ)

私自身のポスターセッションについては「流れの可視化」について写真を中心に説明した。

第3日目(8月8日(金))午前中は施設見学で①総合研究博物館、②医学部標本室、③IML(インテリジェント・モデリング・ラボラトリー)を3班に分かれて順に見学した。印象に残っているのは②の標本室で吉田茂や夏目漱石の脳の標本があった。全身を極彩色で刺青をした人の標本もあった。③のIMLはバーチャルリアリティや高速ネットワーク等の情報科学技術と超並列コンピュータによる数値計算やモデリングを融合した研究を行っているとの事だった。

大型三次元画像装置を使ったバーチャルリアリティを体験させてもらった。数年前にン億円もしたスーパーコンピュータも今は陳腐化して使われてなく、最速のパソコンに置き換えられていたのは驚きだった。

午後はフリーディスカッションで、5班に分かれて「技術専門官の立場としてのリーダーシップ」「技術の伝承・継承」がテーマであった。私が第3班の司会をする事になっていた。東京に来るまで何も知らされていなかったのが本当にびっくりした。与えられたテーマにとらわれず、独法化後の技官のあり方や、科研費(奨励研究)の応募なども含めて、幅広い意見の交換が出来た。予定の時間をオーバーするほどいろんな意見や心配事が話された。

研修最後は特別講演「地球と森林」であった。全て予定通りに研修が終了した。

(余白に)この時期にちょうど台風10号が接近してきており、九州が暴風圏内に入っているとのこと。状況が流動的なのでともかく羽田空港へ向かう。日航の福岡行きは条件付フライト(悪天候の場合は引き返す)という事で、搭乗手続きをする。ほぼ予定通り羽田を発った。大阪湾の上空では台風の真上を飛んで、山口県まで来て後30分で着陸と思っていたら、急に方向を変え日本海の上にUターンし以後松江と山口の間をぐるぐる回る。着陸許可が出ないとの事で、2時間ほどの後羽田へ引き返した。羽田着0時30分であった。再搭乗券の発行を長い行列で待ち午前1時になる。都内へ戻ってホテルを探そうにも、モノレールの最終もない。京急の最終は駆け込めば間に合ったが、ホテルが取れない時はどうしよう。ということで羽田の空港待合室で仮眠をとる事にした。沖縄便も引き返しており、結構大勢の人が残っていた。明け方(午前5時ごろ)臨時便が出るとの事で再搭乗。福岡着午前8時頃。あの時都内のホテルに泊まっていたら臨時便に乗れなかった。数日後、出張が1日伸びた事による旅費の再計算の申請を行う。「悪天候のため着陸できず引き返した」という航空会社の証明書を添えて。

今回の研修で一番印象に残ったのは飛行機のUターンであった?!

完